

築堤工事で死亡事故が発生!!

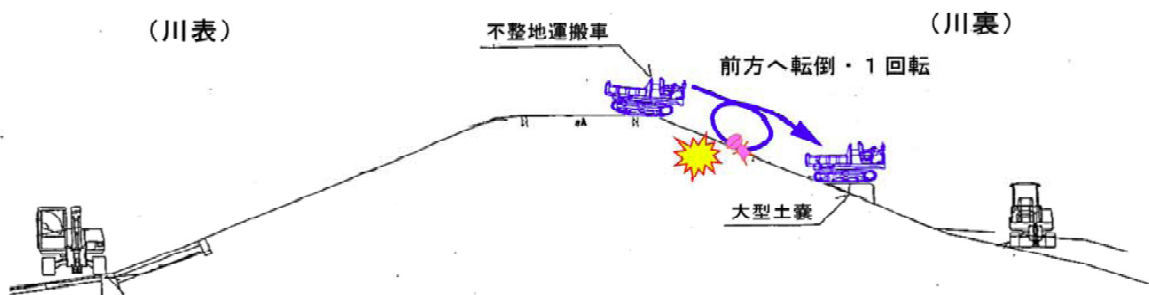
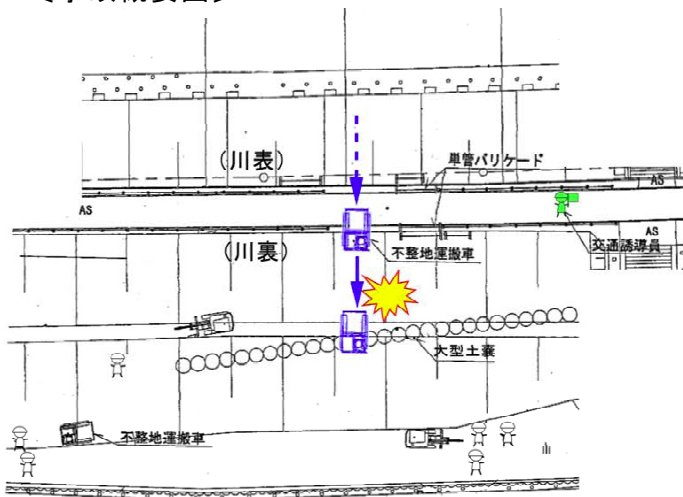
近畿地方整備局管内の請負工事で、平成19年5月に工事関係者が死亡に至る事故が発生しました。

堤防法面で車両が前転し、運転手が下敷きになった!!

〔事故の概要〕

築堤工事において、不整地運搬車を川表法面から川裏法面へ移動する際、堤防天端で停止せずそのまま川裏法面へと走行してしまった結果、法面で車両が前転し、運転手が下敷きとなった。運転手は救急車にて搬送されたが、病院到着時には心肺停止となり、その後死亡が確認されました。

〔事故概要図〕



〔事故の原因〕

◆作業計画書に計画された不整地運搬車作業標準（一旦停止、誘導員の指示に従う等）に従って作業を行っていなかったこと。

〔防止対策(案)〕

- ◆作業員に対し作業計画・手順についての教育・指導を徹底すること。
- ◆特に法面の走行のあたりは、傾斜角度を考慮し、慎重に操作すること。

〔一般的な事故対策(案)〕

- ◆車両系建設機械を路肩や傾斜地等、転倒又は転落の恐れがある場所で使用する場合は、慎重に操作すること。
- ◆車両系建設機械の構造上定められた性能について、理解した上で作業に取り組むこと。

今年の夏は猛暑が予想されます!熱中症対策は万全ですか?

◆屋外作業が多い建設業では、熱中症の原因となる直射日光下での作業が多いため、十分な熱中症防止対策を実施すると共に、適切な応急処置の周知が必要です。また、高齢者や肥満の人など、熱中症になりやすさには個人差があります。

◆熱中症はその症状からⅠ～Ⅲ度の重症度に分類されます。熱中症の疑いがある場合は、現場での応急措置を実施し、重症の場合は直ちに救急車を手配すること。

重症度Ⅰ度



⇒ 水分・塩分を補給しましょう

重症度Ⅱ度



⇒



自分で水分・塩分を摂れなければ
すぐに病院へ

重症度Ⅲ度



⇒



すぐに救急隊を要請する



【対策方法(案)】

- ◆こまめに水分を補給する。
- ◆吸水性の優れた素材でできた服装を着る。
- ◆熱を吸収しにくい白っぽい服装を選ぶ。
- ◆気象情報を活用し、急に暑くなる日に注意する。
- ◆労働者に対し、日常の健康管理や熱中症に関する症状等の防止対策の指導を行う。



環境省のホームページ (<http://www.env.go.jp/>) では、熱中症についての正しい知識の提供と、適切な予防及び処置方法を行なえる様『熱中症保健指導マニュアル』を公開しています。

※熱中症に関する個々の情報は『熱中症保健指導マニュアル』を引用しています。

奈良国道事務所 橿原維持出張所が無事故・無災害1500日を達成!!

◆奈良国道事務所 橿原維持出張所では、平成15年4月1日に「無事故・無災害」を目標に掲げ、平成19年5月9日で記念すべき1500日を達成しました。

【今後の意気込み】

無事故・無災害の日数が、平成19年5月9日で1500日を達成しましたが、その間、約4年、工事件数約100件、毎月の安全連絡会の開催とともに、監督者側・施工者側、双方の安全に対する意識と作業員等に対する教育を継続して実施してきた中での達成となりました。

今後は、「無事故・無災害2000日」という目標を掲げ、頑張りたいと思います。

橿原維持出張所工事安全連絡会 会長 今西栄二



1500日達成記念パネル